

「第3回 IWATE BASKETBALL FESTIVAL」

6月12日(日)“岩手のバスケットがひとつになる日”と銘打ち、「IWATE BASKETBALL FESTIVAL」が開催されました。この事業は、岩手県バスケットボール協会が「バスケットで岩手を元気に」を目指して、バスケットの経験者もそうでない人も、みんなで集い、バスケットを楽しむ日と位置づけ、開催しているものです。

横断幕には「IWATE BASKETBALL FESTIVAL」の文字。その下では、ミニゴールでシュートに興ずるちびっ子たちが…。子どもたちがゴールに触れる第一歩。それを優しく見守るスタッフ達です。



「よ〜くねらって。」会場に遊びに来たのは、まだバッシュも履いてない小さな子。でも、その目は真剣そのもの。きっと2年後、3年後、コートの中でたくさんの仲間とプレーする。そんな姿が目に見えます。

アスレチックのようなコースに列を作って並ぶ子どもたち。バスケットにつながる様々な動きを体験できるのもこのフェスタ。知らず知らずのうちにコーディネーション能力が養えます。



「もりもりクリニック」。マジックみたいなボールハンドリングに目を丸くする子どもたち。僕も、私もと、次々に新しい技に挑戦します。

吉本所属お笑い芸人アンダーエイジも応援に駆け付けました。花巻のミニバスチーム出身で、地元の高校に進学、東北大会にも出場したそうです。クリニックに参加した子どもたちと笑いを交えて交流し、バスケットの魅力を伝えてくれました。





岩手が輩出したプロバスケットボールプレイヤーの何人もが、このフェスタに参加してくれました。シーズン中、放映された画面に映る憧れの先輩たちと直に触れ合う機会は貴重で、参加者は皆、興奮を隠しきれませんでした。

バスケットを楽しむ日常。おじさんたちの3×3(笑)。ハーフコートでも息の上がる年齢ながら、「まだまだ若いもんには負けん！」と張り切ります。世代、性別を超えた対決も繰り広げられました。



車椅子バスケットの体験コーナー。東京パラリンピックの活躍は記憶に新しいところ。やってみて初めて分かるそのすごさ！また一つ、バスケットの魅力を発見した参加者たちでした。



日本のトップ選手からのコーチング。その言葉を一つも聞き逃すまいと耳を傾けます。この後、夢のドリームマッチ。トップアスリートとの真剣勝負は、今の自分の位置を確かめ、次のステージへの扉を開きます。この中から、また世界に羽ばたく選手が生まれます。



岩手県バスケットボール協会が総力を挙げて岩手県全ての人にプレゼンするこの企画。バスケットを知らない小さな子から、マスターズで全国を飛び回るつわものまで、みんなが一堂に会し、ボール片手に笑顔を交わす。もちろん普及育成の意味合いも大きいのですが、それ以上に、誰でも気軽に参加できる一つのテーマパーク的なイベントとなっています。ここからバスケットをスタートする子。バスケットの楽しさを再発見する子。夢と出会い、進む道を見つける子。岩手から羽ばたき、全国、世界で活躍する選手たちが故郷に戻り、また子どもたちに夢を与える場。多くの人が楽しむ傍では、岩手の熱心な指導者達が、子どもたちの活躍を夢見て、中央講師から明日の日本のバスケットについて最新の情報を真剣に学ぶ姿があります。バスケット色的一天。会場全てがバスケットで埋め尽くされ、老若男女全ての人が思い思いに楽しむことのできるスペースの提供。「バスケットで日本を元気に！」「バスケットで岩手を元気に！」目指すべきものを具体化した姿がここにはあります。(たぶん笑)

第3回を数えたこのイベントも、年々グレードアップし、参加者も順調に増え続けています。バスケットの魅力を多くの人に伝えるべく、20を超えるブース、プログラムを取りそろえ、参加者もまた主役となって、そこにいるすべての人たちが会場を盛り上げるこの「IWATE BASKETBALL FESTIVAL」。”熱”があるから人が集まる。魅力の発信が興味につながる。普及という観点からも着実な成果を上げている本イベントの紹介でした。